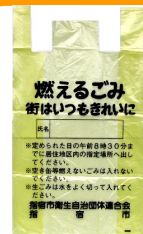


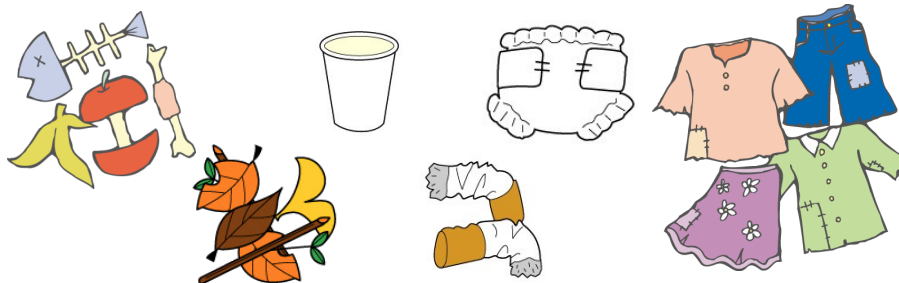
燃えるごみ

(資源ごみ以外の、燃える素材のもの)

重要!!

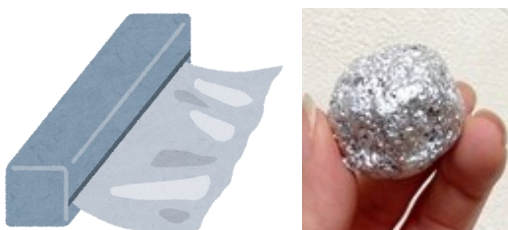


1 燃えるごみで出せるもの



- ・ 生ごみ、紙や布、プラスチックなどの、燃える素材でできているもの

3 丸めて2cm未満のアルミ箔



- ・ 丸めて2cm以上になるアルミ箔は「燃えないごみ」に出す

4 土はよく落として混ざらないように



- ・ よく土を落としてから指定袋へ

出せるものと出し方のポイント

出すときのルール



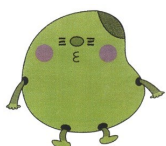
- ・ しっかりと分別して、資源になるものは「資源ごみ」に出しましょう



- ・ 1回に出せる数は4袋までです
4袋を越える場合は次回へ繰り越す

豆

知識



生ごみの約80%は水分だと言われているんだよ。簡単に燃えてしまうティッシュでも水にぬれてしまうと燃えにくくなるように、焼却炉に入った生ごみは燃焼効率を大きく下げてしまうんだ。

燃えにくいものを燃やそうとすると、それだけ燃料費や時間も多くなり、焼却炉にも負担がかかってしまうよね。生ごみを「燃えるごみ」に出す時には「水気のひとしぼり」を心がけようね。

2 資源ごみに該当しない「燃える素材」のもの

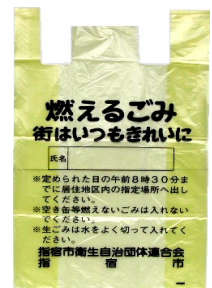
【例】



- ・プラスチック素材で、それ自体が商品であるもの
商品でないものの容器であるもの
商品でないものを包装していたもの
- ・内側がアルミ加工している紙コップ
- ・500ml未満の紙コップ
- ・防水加工をしている紙
- ・においが強く染み付いた紙
- ・感熱紙や油紙などの特殊な紙

5 長いもの、大きいものは分解して袋に入れば「燃えるごみ」

豆



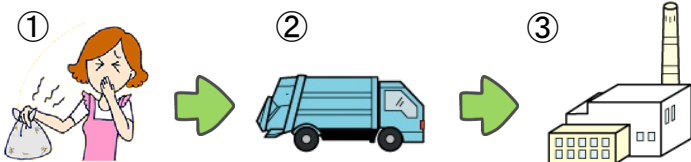
- ・燃える素材の大きなものも、小さく分解できれば指定ごみ袋に入れて「燃えるごみ」へ
- ・特大の指定袋に入らないものは「粗大ごみ」で出す

豆



水切りメリット

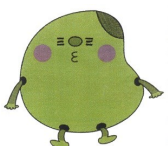
- ① 生ゴミから水分が減ることで臭いが抑えられる
- ② ごみ袋が軽くなり、運搬や作業がしやすくなる
- ③ ごみ処理場の負担が減り、余計な経費が減る。



・生ごみを出す時はしっかり水切りを行いましょう

豆

知識



指宿広域クリーンセンターに持ち込まれた「燃えるごみ」は、「ごみピット」と呼ばれる場所に集められるんだ。集められた燃えるごみは、クレーンでつかんで「焼却炉」へ運ばれるんだけど、焼却炉の入口の広さは約「1m×1m」だから、それ以上大きなものは引っかかってしまって焼却炉へ入らないんだ。

「特大の指定ごみ袋」に入らないような大きなものは、「破碎機」で小さく砕いたあとに焼却炉に入れられるんだよ。